

1 派遣期日 平成23年11月12日(土)

2 研修先 学校名 筑波大学附属中学校

所在地 東京都文京区大塚1丁目9-1

<http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/jhs/>

3 研修内容

(1) 全体会(講演)

「言語活動の充実」を行うことの意味

横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター 教授 高木展郎先生

○「勉強」ができるとは

①時代が求める学力…「学力は時代によって変わる」ということに対する認識が重要
社会状況と学力との関係は密接なものがある

②「知識基盤社会」の時代と「生きる力」の継承(中教審答申)

○教育状況の変化における学力観の転換

①知識の習得と再生 から 思考力・判断力・表現力 の時代へ

②「考える」こと、コミュニケーション能力 の育成=ことばを用いた活動の充実
→「各教科等における言語活動の充実」

○「言語活動」とは

現在、ふだんの授業で行っていること。10年先を見据え、「未来を創るための学力」
を、教師が専門職として伝えていくこと。「未来を創る」とは、自分が学習していないことも「教えていく」
ことである。同じことを繰り返していくことだけを言うのではない。

○学力としての思考力・判断力・表現力の育成

学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語であり、その中心となるのは国語である。
しかし、だからといってすべてが国語科の役割というものではない。各教科の教育内容として、記録、要約、
説明、論述といった広い意味での言語を使用した学習活動に取り組む必要がある。

○これからの時代に求められる学力としてのReading Literacy

①Reading Literacy 育成のための授業

「思考力・判断力・表現力」という学力を育成する。

②PISA型「読解力」

「受信→思考・想像→発信」という一連のプロセス

③Reading Literacy 育成のための授業の具体

「聴いて→考えて→つなげる」授業・各教科等における言語活動の充実

○「聴いて→考えて→つなげる」授業づくりの意味

①あたたかな聴き方、やさしい話し方=学級づくり=居場所づくり

②「聴いて→考えて→つなげる」授業の内容

- ・相手の話に耳を傾け集中して理解すること
- ・相手と意見を比べたり修正したりしながら自分で考えること
- ・自分の考えと理由をはっきりさせて発表し、話し合いをつなげて発展させること

○リテラシー(Literacy=「考える能力」)を高める授業

①友達と関わろうとする→友達の発表に対して、自分なりに反応し、反応を返す。

②「聴く」ことの大切さ→「聴く」ことを鍛える。(わかったことを復唱させる)

③学習者が自分の立場に気付く

- ・「わからない」「こまった」→授業で解決する。
- ・自分の立場、考えをはっきりさせる(発表、反応)
- ・簡単に「わかりました」と言わせない→わかったことを説明させる。

④教室における自己相対化の観点の獲得

- ・自分と友達の相違や共通について気付かせる。
- ・違いを知ることによって、認め合うことの大切さを気付かせる。
- ・自分自身の良さに気付かせる

- ⑤「考える」力を高める授業→「考えたこと」を、自分の言葉で「説明する」
- 「聴いて→考えて→つなげる」授業づくりの方法
 - 学校全体で、中学校3年間を通して育てる 「チーム〇〇中学校」「オール〇〇中学校」
 - ①「聴く」ことを鍛える
 - ・聴いていない場合には、授業を止めて鍛える
 - ・教師が「聴き」上手になる
 - ②「考え」をもつ時間と場を保障する→個の「考える」ことを鍛える。
 - 授業者が「聴く」ことと「待つ」ことの重要性を意識する。
 - ・自分なりに「一人学び」をする時間の保証→机間指導のチャンス
 - ・書きながら「考える」時間の保証
- 授業づくりの方法 学習のプロセス
 - ①一人で学ぶ（自分の考えの確立・保証）
 - ②みんなで学ぶ（教室で学ぶことの意味はここにある）
 - ③学びを振り返る（学習評価＝振り返り）→「何を学んだか」（メタ認知）
- 授業づくりにおける教師のスタンス
 - ①生徒の「説明」による授業→教師が説明をしすぎない（話しすぎない）
 - ②生徒の思考を支える→「考える」ことを支え、うながす発問・指示
 - ③生徒の発表を教師がまとめない、奪わない。発言を復唱しない。
 - ④生徒の「聴く」ことを鍛える。
 - ⑤適切な評価を、授業で行う。→終了時に、良かったことを具体的に評価する。（例）説明の仕方をほめる。
 - ⑥生徒の表現活動としてのノート指導の充実
 - ⑦教師間の連携による評価
 - ⑧生徒同士のクラス・学年を越えての授業参観・授業研究
 - 生徒に授業イメージをもたせる。生徒と一緒に授業を作っていく。
 - 授業の事後研修に生徒を参加させ、教員とともに授業を作っていく。

(2) 公開授業及び研究協議

「書くことと考えること」（第1学年）	筑波大学附属中学校 教諭 飯田 和明先生
--------------------	----------------------

○単元名 「書くことと考えること」（第1学年）

○単元設定に関わる課題意識

人が言葉を使って文を書く、そのさまざまな形を経験し、振り返ることで、書くことと考えることを結びつけ、書くことを〈言語活動の構成〉において認知することによって、生徒各自の言語生活の向上につなげたいと考えた。－「開放単元」という位置付け

○身につけさせたい国語の力

- ①文を書いたり書き換えたり書いた文を振り返ったりしながら、思考を展開させ高める力。
- ②書くことを言語生活の中に位置づけ、上記能力を用いていく力。

○学習指導の構想

①教材：書くことの経験。いくつかの例文。描写するもの。思考操作に使う文章。

②授業の展開

第1次 様々な書くこと→書く対象や形態を変え、様々な書くことを経験する。

第2次 言語活動の構成→様々な書くことを、〈言語活動の構成〉において認知する。

第3次 書くことと考えること→書くことを言語生活の中に位置づける。

4 感想

今回の研修では、自らの担当教科である国語科以外にも、あらゆる教育活動において「言語活動」を設定していくことの必要性を感じることができた。また、「言語活動」は設定することではなく、それらを通して「Reading Literacy」を育成していくことが大切であると実感することができた。10年先、いや将来の「日本国」を背負って立つ人材を育成しているという重責を感じつつ、日々研鑽に励むことの重要性を再認識した。今回、研修の機会をいただけたことに厚く感謝するとともに御礼申し上げたい。